

# 和歌山県立自然博物館所蔵のカニ類標本 (永井コレクション)の分類学的研究 II. 日本新記録種(2)

丸村 眞弘\*・武田 正倫\*\*

Masahiro MARUMURA and Masatsune TAKEDA: Taxonomic studies on the crabs of the NAGAI Collection preserved in the Wakayama Prefectural Museum of Natural History

## II. Species new to Japan (2)

本誌46巻2号(丸村・武田, 2004)に引き続き, 和歌山県立自然博物館所蔵のカニ類標本(永井コレクション)において, 新たに明らかになった日本新記録種6種について報告する。

Leucosiidae コブシガニ科  
*Cryptocnemus planus* WARD, 1933  
ヒラウスヘリコブシ (新称)  
(Fig. 1)

*Cryptocnemus planus* WARD, 1933, p. 377, pl. 22, figs. 7, 8.

甲は丸みのある六角形で, 甲幅が甲長より大きい。甲の周縁は強く上方にそり返っている。甲面の中央部の周囲に円形の浅い窪みを生じている。甲面は細かい顆粒で覆われる。額域縁の中央から甲の背面に向かって短く低い稜線が伸びる。甲の側縁の肝域部は左右とも鈍角を形成し, その先端間の幅は甲の後縁の幅とほぼ等しい。また, 甲の前側縁の長さは甲の後縁とほぼ等しい。甲面中央部は弱く盛り上がり, 胃域, 鰓域, 心域, 腸域が不明瞭に認められる。腸域には鈍い突起がある。

鉗脚の長節, 腕節, 掌部, 指部の各縁は板状。右長節の内縁は丸く盛り上がっているが, 左長節では中央部が三角形の歯となっている。鉗脚の掌部背面にある1本の曲線の顆粒列は, 腕節との関節近くの下部に始まり, 指節との関節近くで終わる。掌部外縁の稜とこの顆粒列により楕円形の窪みが形成されている。掌部内縁及び不動指の下縁は顆粒によって縁取られる。

NG *et al.* (2008) によれば, ウスヘリコブシ属 *Cryptocnemus* には21種が知られている。SERÈNE & SOH (1976) は *C. aberrans* BALSS, 1938 と *C. planus* WARD, 1933

の2種の雄の第1腹肢を比較して同一種ではないかと指摘している。本研究に用いた琉球列島産の雄の第1腹肢を調べた結果からも, 同種と判断された。

本種は *C. crenulatus* GRANT & MACCULLOCH, 1906, *C. pentagonus* STIMPSON, 1858 及び *C. siamensis* SERÈNE & SOH, 1976 の3種と近縁であるが, 本種の甲がほぼ六角形であることにより上記3種と容易に区別できる。

分布: オーストラリアのクイーンズランド沖。

検討標本: 雄1個体(甲長3.9 mm, 甲幅4.3 mm), 雌1個体(甲長4.2 mm, 甲幅5.5 mm) (WMNH-Na-Cr 0256); 1977年3月; 石垣島米原水深2 m。

Inachidae クモガニ科  
*Oncinopus postillonensis* GRIFFIN & TRANTER, 1986  
ヒラツノクモガニ (新称)  
(Fig. 2)

*Oncinopus postillonensis* GRIFFIN & TRANTER, 1986, p. 36, fig. 6.

甲は前半の3/4がほとんど一樣な幅で, 後半の1/4の幅が広がっている。前半の甲幅は後半の約0.7倍である。甲面は滑らかで, 後半の側縁近くに2つの低い顆粒があるのみである。額はU字形の狭い切れ込みによって幅広い2葉に分けられ, 背面は平たい。額部の長さは甲長の約1/5で, 中央の切れ込みに沿って巻き毛が列生する。額部は眼柄の大部分を覆っていて, 背面からは角膜の先端が見えるのみである。鰓域には縦に並ぶ2列の巻き毛がある。胃域は中胃域の低い丸い瘤で盛り上がっている。心域には2つの低い突起があるが, 腸域は滑らかである。第3顎脚は滑らかで, 長節の前側縁は弱く膨れて丸い。

\* 〒646-0024 和歌山県田辺市学園1-88 和歌山県立南紀高等学校 E-mail: mmarumura@ares.eonet.ne.jp

\*\* 〒170-8445 東京都豊島区東池袋2-51-4 帝京平成大学現代ライフ学部 E-mail: takeda-m@thu.ac.jp

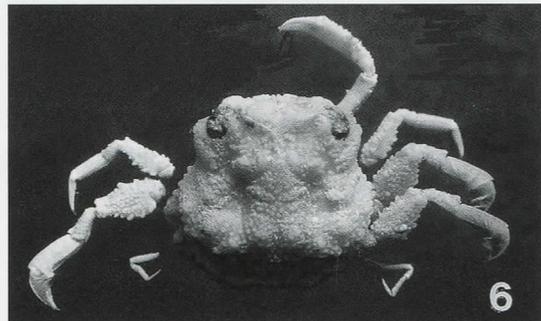
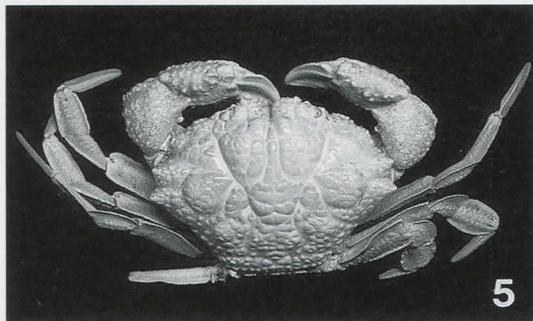
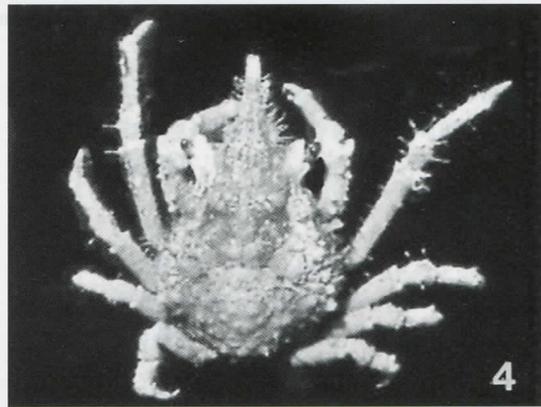
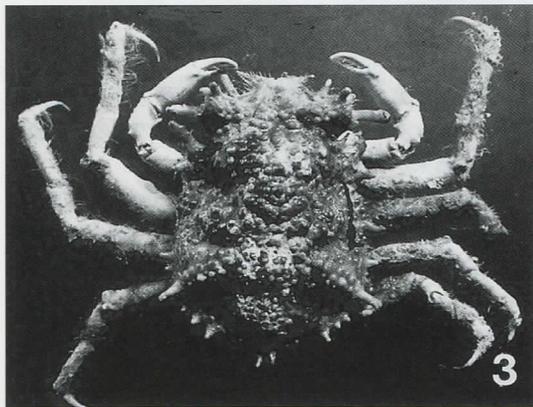
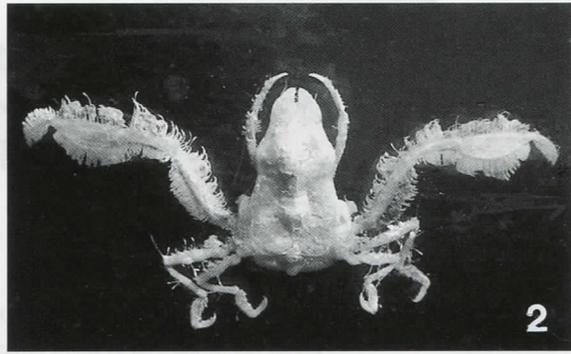
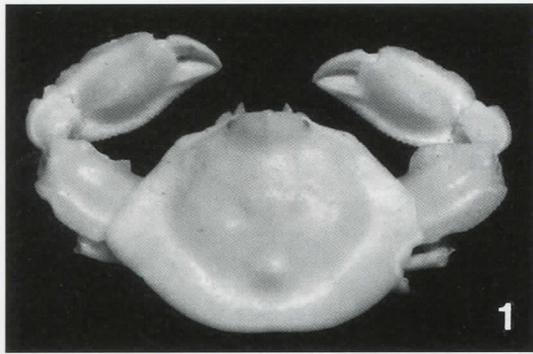


Fig. 1. ヒラウスヘリコブシ (新称) *Cryptocnemus planus* WARD, 1933, ♂.

Fig. 2. ヒラツノクモガニ (新称) *Oncinopus postillonensis* GRIFFIN & TRANTER, 1986, ♀.

Fig. 3. ミナミワタクズガニ (新称) *Micippa xishaensis* CHEN, 1979, ♂.

Fig. 4. ツノナガイソクズガニ (新称) *Tiarinia dana* GRIFFIN & TRANTER, 1986, ♂.

Fig. 5. ヒラアシウロコオウギガニ (新称) *Demania cultripes* (ALCOCK, 1898), ♂.

Fig. 6. ダルマイトアシガニ (新称) *Rectopalicus ampullatus* CASTRO, 2000, ♂.

鉗脚の長節と腕節は滑らかで、外面の腹側に長い羽状毛が列生し、背面には短毛が列生する。鉗部には背面と腹面に短い羽状の毛が列生する。掌部は幅より長さが約3倍長い。指部の長さは掌部の約1/2である。第2歩脚は扁平で、その長さは甲長の約1.5倍である。前縁と後縁に長毛が列生する。

Ng *et al.* (2008) によれば、クモガニ属 *Oncinopus* に含まれるのは5種である。本種は額部が平たく、2葉に分かれていることによって他の4種と容易に区別できる。

分布：フロレス海、チモール、スル諸島。

検討標本：雌1個体（甲長7.1 mm, 甲幅4.0 mm）

(WMNH-Na-Cr 0260)；1990年12月4日；沖縄県那覇市沖 水深60～70 m。

#### Mithracidae ワタクズガニ科

#### *Micippa xishaensis* CHEN, 1979

#### ミナミワタクズガニ (新称)

(Fig. 3)

*Micippa xishaensis* CHEN, 1979, pp. 77, 81, fig. 2; CHEN, 1980, p. 130, pl. 3, figs. 3, 4.

甲は額域を除くとほぼ縦長の四角形で、わずかに後方に向かって甲幅が大きくなる。甲面は平坦ではなく、全面が様々な大きさの顆粒で粗面を呈し、かなり明瞭に甲域に分けられる。肝域は強く窪んでいる。額は基部で融合した2本の額棘からなる。額棘は腹面に向かって約45度の角度で下垂し、先端は二分岐してそれぞれ外方に向く。眼上板には3個の瘤があり、2個の瘤の間の棘は鋭い。眼窩外歯は二又する。前側縁には7個の瘤がある。後側縁には数個の顆粒と3, 4本のより大きな先端の丸い棘がある。後縁中央には2本の先端の丸い棘がある。

第2触角の基節は著しく幅広く、その内角及び外角は棘状に突出している。外角近くに背面に向かって突き出した先端の丸い三角形の葉状突起がある。第3顎脚の長節は座節より短く、その内角は強く張り出している。

鉗脚は短くて小さい。長節の前縁及び後縁には棘や突起はない。掌部は長さが幅の約1.5倍で、顆粒で覆われ、基部が張り出している。指部は掌部より短く、内縁に小さな歯がある。腹部は幅の狭い三角形で、明瞭に7分節する。尾節は先端が丸い。雄の第1腹肢は細長く、先端は鋭く尖る。

NG *et al.* (2008) によれば、ワタクズガニ属 *Micippa* に含まれるのは10種である。本種はよく知られたワタクズガニ *M. thalia* (HERBST, 1803) に近縁であるが、次の3点で明瞭に区別される。1) 甲の背面はワタクズガニでは顆粒と長い棘をもつのに対し、本種では粗い顆粒で覆われる。2) 甲の側縁にはワタクズガニでは多くの長い棘があるのに対し、本種では棘は少なくて短い。3) 第2触角の基節はワタクズガニでは顆粒で覆われ、内角が突出せず、外角に4本の小棘があるのに対して、本種では滑らかで、内角及び外角が棘状に張り出し、外角近くに先端の丸い三角形の葉状突起がある。

分布：南シナ海の西沙諸島。

検討標本：雄1個体（額棘を含めた甲長27.5 mm, 最大甲幅19.5 mm）(WMNH-Na-Cr 0414)；1986年1月；和歌山県潮岬 水深10 m。

#### *Tiarinia dana* GRIFFIN & TRANTER, 1986

ツノナガイソクスガニ (新称)

(Fig. 4)

*Tiarinia dana* GRIFFIN & TRANTER, 1986, p. 286, figs. 106, 107c, 112d, f.

甲幅は額棘を除く甲長の約3/4倍。甲面は小さな瘤

と瘤に生える長毛で覆われる。2本の額棘は細長く、中央で接し、ほとんど細くなることなく、先端に向かってわずかに上方にそり返る。額棘長は甲長（額棘を除く）の約1/3である。表面には巻き毛が列生する。眼上板は強く膨らみ、幅広い眼窩前歯は上方にそり返ることなく、真直ぐ前方に向く。眼窩後歯の前縁は膨らんで、先端は切断されたような形を呈する。眼柄は滑らかで、ほとんど眼上板で覆われる。肝域は丸く、多数の小瘤で覆われる。中胃域の隆起は弱く、最も前方の瘤は2組の原胃域の瘤とその後方の5つの瘤からなる1列の瘤、2つの中央の瘤、後方のほぼ中央に位置する1組の瘤で形づくられる。心域は中央近くの1組の瘤とその後方の1個の瘤をもつ。腸域は中央の1個の瘤と側方の2個の小瘤からなる。後縁の前方に弱く隆起した稜があるが、後縁には瘤はない。鰓域はかなり平坦な瘤で覆われ、前鰓域には大きな丸い瘤の集まりがあり、甲の側縁近くに1個の瘤がある。

第2触角の基節は極めて幅広く、縦に浅い溝が走り、表面は滑らかである。前側角はほぼ直角。眼窩後歯の縁は第2触角基節と一部が重なり合う。第3顎脚の長節は前側縁が丸く葉状に張り出す。

鉗脚の長節は背面に3本の先端の丸い棘があり、末端に1つの棘状突起がある。腹面にも2本の瘤状突起がある。腕節は外面に数個の小さな瘤状突起をもつ。可動指及び不動指のわずかな隙間には両指とも数個の小歯をもつ。歩脚は細長く、滑らかである。長節は円筒状で、ピロード状の短毛で覆われ、背面に巻き毛を生じている。指節には腹面に5~7個の小歯が列生する。

雄の腹部は7節からなり、第6節の幅は長さの約1.5倍である。第7節は幅より長さが大きく、その長さは幅の約2倍である。雄の第1腹肢は真直ぐで、先端に向かってわずかに細くなるが、先端で大きく杯状に広がっている。

NG *et al.* (2008) によれば、イソクスガニ属 *Tiarinia* に含まれるのは14種である。本種は大きな眼窩前歯をもつこと、甲の後半部に瘤を欠き、滑らかであること及び円筒状の歩脚をもつことなどの点で *T. macrospinosa* BUITENDIJK, 1939 に似るが、眼窩前歯が真直ぐに前方に向かうこと、眼窩後歯の前縁が膨らんでいること、鰓域の甲の側縁近くに1個の瘤があること、第2触角の基節の前縁に棘を欠くこと、鉗脚の腕節に瘤状突起があること及び雄の腹部の第6節が長さより幅が広いことなどによって区別することができる。

分布：マラッカ海峡、ニューギニア島のイリアンジャヤ。

検討標本：雄1個体（額棘を除く甲長15.4 mm, 最大甲幅13.7 mm）(WMNH-Na-Cr 0420)；1994年4月22日；

沖縄県阿嘉島 水深 3 m。

### Xanthidae オウギガニ科

*Demania cultripes* (ALCOCK, 1898)

ヒラアシウロコオウギガニ (新称)

(Fig. 5)

*Xantho* (*Lophoxanthus*) *scaberrimus* var. *cultripes* ALCOCK, 1898, p. 117.

*Xantho reynaudii* var. *cultripes*: BALSS, 1938, p. 51.

Not *Xantho reynaudii cultripes*: SAKAI, 1939, p. 461, fig. 29, pl. 90, fig. 2 = *Demania japonica* GUINOT, 1977.

?*Xantho cultripes*: TAKEDA & MIYAKE, 1968, p. 53.

*Demania scaberrima cultripes*: GUINOT, 1969, p. 235

*Demania cultripes*: GUINOT, 1979, p. 61, pl. 4, figs. 7, 8 ; GUINOT & RICHER DE FORGES, 1981, p. 1122, pl. 1, fig. 4; SERÈNE, 1984, pp. 185, 186, fig. 110; GARTH & NG, 1985, p. 299, pl. 4, figs. 2 A-C, 4 ; DAVIE, 1989, p. 126, fig. 4.

*Demania alcalai* GARTH, 1975, p. 2, fig. 1.

*Demania macneilli* GARTH, 1976, p. 113, figs. 1.

甲の輪郭は五角形。額は強く張り出し、顕著な中央の切れ込みにより台形状の2葉に分けられる。眼窩上縁及び眼窩下縁は滑らかで、眼窩上縁には側方に切れ込みがあり、眼窩下縁は第2触角近くが丸く膨らむ。甲面は軟毛で覆われた深い溝により明瞭に分画される。額を除く甲縁を囲む甲域は平らな小さな顆粒で覆われる。甲の後方1/4は鱗状を呈する。甲面の残りの部分は無毛で滑らかである。甲の前側縁は4歯からなり、第1歯と第2歯は鈍歯状であるのに対し、第3歯と第4歯が先端が鋭く尖る。第3歯は最大で、太く、先端が前方に向く。眼窩外歯は小さい鈍歯であるが、明瞭。後側縁はわずかに膨らみながら後縁に向かって狭まる。眼窩上縁の内角と下縁の内角の間は大きな第2触角基節によって塞がれている。第1触角は斜めに折り畳まれる。眼下域、頬域、下鰓域及び下肝域は丸い小顆粒で覆われる。下鰓域は軟毛で密に覆われる。

第3顎脚は比較的滑らかで、座節には深い縦溝がある。前側縁は側方に張り出し、板状になる。座節の内縁は鋸歯状を呈し、表面は小さな窪みで覆われる。長節の表面は平らな顆粒で覆われる。

鉗脚はほぼ左右相称で、掌部の外表面はほとんど滑らかに見える非常に低い顆粒で覆われ、上縁には大きな丸い歯が列生する。腕節の内角には鋭く尖る1歯がある。長節上縁には切れ込みによって隔てられた顕著な2枚の板状の歯がある。長節および腕節の内面及び外面は平たい顆粒で覆われる。

歩脚は偏圧され、滑らかである。長節、腕節及び前節

の上縁及び下縁は顕著に薄板状を呈する。長節の下縁は2枚の薄板からなる。指節の上縁及び下縁はピロド状の軟毛で密に覆われる。無毛の部分はかなり広い。指節はわずかに湾曲し、5歯をもつ。腹部胸甲は鱗状で、腹部の表面はこれよりわずかに滑らかである。

雄の腹部は5節からなり、第3節から第5節は融合している。末端の2節はほぼ長さが等しい。

NG *et al.* (2008) によれば、ウロコオウギガニ属 *Demania* に含まれるのは17種である。本種はコブウロコオウギガニ *D. baccalipes* (ALCOCK, 1898) に近縁であるが、額の2葉が前方に張り出すこと、鉗脚の腕節の内角に鋭く尖る1歯があること及び歩脚が扁平で、長節、腕節、前節の上縁及び下縁が滑らかで薄板状を呈することなどにより容易に区別できる。

分布：東シナ海、台湾、フィリピン、シンガポール、アラフラ海、オーストラリア東岸、ニューカレドニア。検討標本：雄1個体(甲長49.2 mm, 甲幅61.6 mm) (WMNH-Na-Cr 0797); 1993年11月12日; 鹿児島県奄美大島古仁屋 水深30~50 m。

### Palicidae イトアシガニ科

*Rectopalicus ampullatus* CASTRO, 2000

ダルマイトアシガニ (新称)

(Fig. 6)

*Rectopalicus ampullatus* CASTRO, 2000, p. 541, figs. 36, 37a, b, 61a.

甲は洋梨形に近く、甲幅は甲長よりわずかに大きい。甲面は多くの丸い顆粒及び顆粒で覆われた瘤で覆われるが、特に鰓域と中胃域では顕著である。甲の側縁は前半部がほぼ真直ぐで、後半部が幅広くなる。幅広くなっている部分には先端が切断されたような形の4歯がある。甲の後縁は多数の丸い顆粒で覆われる。額域は幅広くて丸くて短い2葉からなる。額縁と眼窩上縁の間には連続した曲線的で、わずかに下垂した3つの部分がある。眼窩上縁は2つの非常に短い直線的な葉状部をもつ。眼窩後歯は短く、先端がわずかに尖る。甲の額葉と第3顎脚の長節の間はほとんど平坦である。口前部、頬域、眼窩下縁は融合する。眼窩下縁は不規則に顆粒で覆われた短い内外の2葉からなる。口郭の前側角にある頬域は短くて直線的で、前縁が長方形を呈する。第2触角の基節は太く、長方形で顆粒で密に覆われる。口前部は広くて中央の窪みを除けば膨らんで、直線的である。口前部の前縁は中央の大きな三角形の2歯とその側方の2小歯からなり、頬域と融合する。第3顎脚の座節の内縁は幅の広い三角形を呈し、その表面は丸い顆粒で覆われる。長節は座節と同じ幅で、前縁が三角形を呈する。

鉗脚の前節の背面及び外面は小さな丸い顆粒列で覆われる。指節は非常に短く、丸い顆粒で覆われる。腕節は短く、外面が丸い顆粒で覆われる。長節は細長く、外面は丸くて低い顆粒で覆われる。第1歩脚から第3歩脚は細長く扁平である。第1歩脚は第2歩脚及び第3歩脚より短くて細長い。第2歩脚と第3歩脚はほぼ大きさが等しい。第4歩脚は最も短くて細い。第1歩脚の長節の前縁は丸い顆粒で覆われ、後縁は鋸歯状に歯が列生し、外面及び内面は同大の顆粒で覆われる。腕節の前縁及び後縁は丸い顆粒で覆われる。前節の後縁は小さな尖った顆粒で覆われる。指節の後縁は2, 3本の小棘で縁取られる。第2歩脚及び第3歩脚の長節の前縁及び後縁は鋸歯状に歯が列生し、外面及び内面はほぼ同大の顆粒で覆われる。腕節の上縁は薄板状を呈し、丸い顆粒が列生し、下縁は顆粒で覆われる。前節は前縁及び後縁が薄板状を呈する。指節の後縁は2, 3本の小棘で縁取られる。第4歩脚は非常に細くて、短い。長節は細長く、微細な顆粒で覆われる。前節は微細な低い顆粒で覆われる。指節の後縁には3本の小棘が列生する。

雄の腹部は各節が融合することなく、丸い顆粒で覆われる。第1節から第3節には横走する稜が1本ずつあり、顕著な丸い顆粒で縁取られる。

NG *et al.* (2008) によれば、ダルマイトアシガニ属 *Rectopalicus* に含まれるのは3種である。本種は甲の側縁が後半部で丸く膨れていること及び腹部の表面が丸い顆粒で覆われていることによって、他の2種と容易に区別できる。

分布：中部太平洋のロイヤルティ諸島、フツナ島。

検討標本：雄1個体（甲長6.2 mm, 最大甲幅6.5 mm）(WMNH-Na-Cr 1240)；1992年11月15日；沖縄県久米島南東水深250 m。

## 引用文献

- ALCOCK, A. 1898 : Materials for a carcinological fauna of India. No.3. The Brachyura Cyclometopa. Part I . The family Xanthidae. J. Asiat. Soc. Bengal, **67**, 67-233.
- BALSS, H. 1938 : Ueber einige Xanthidae (Crustacea Dekapoda) von Singapore und Umgebung. Bull. Raffles Mus., (14), 48-63, pls. 2, 3.
- BUITENDIJK, A. M. 1939 : Biological results of the Snellius Expedition. V . The Dromiacea, Oxystomata and Oxyrhyncha of the Snellius Expedition. Temminckia, **4**, 223-276.
- CASTRO, P. 2000 : Crustacea Decapoda: A revision of the Indo-west Pacific species of palicid crabs (Brachyura Palicidae). Résultats des Campagnes MUSORSTOM, vol.21. Mém. Mus. natn. Hist. nat., **184**, 437-610.
- CHEN, H. 1979 : Two new species of crabs from the Xisha Islands, Guangdong Province, China. Oceanol. Limnol. Sin., **10**, 77-81.
- . 1980 : Studies on the crabs of the Xisha Islands, Guangdong Province, China. Stud. Mar. Sin., **17**, 117-147, pls. 1-4.
- DAVIE, P. F. J. 1989 : New record of *Demania* (Crustacea: Decapoda: Xanthidae) from Australia. Mem. Qd Mus. **27**, 123-128.
- GARTH, J. S. 1975 : *Demania alcalai*, a second new species of poisonous crab from the Philippines (Crustacea, Decapoda, Brachyura). Philip. J. Sci., **104**, 1-6.
- . 1976 : *Demania macneilli*, a new species of xanthid crab from northern Queensland (Crustacea: Decapoda). Rec. Aust. Mus., **30**, 113-117.
- . & P. K. L. Ng. 1985 : Notes on the genus *Demania* LAURIE, 1906 (Crustacea, Decapoda, Xanthidae). Indo-Malay. Zool., **2**, 293-308, pls. 1-7.
- GRIFFIN, D. J. G. & H. A. TRANTER. 1986 : The Decapoda Brachyura of the Siboga Expedition. Part VIII . Majidae. Siboga-Exp., **39C4**, 1-335.
- GRANT, F. E. & A. R. MACCULLOCH, 1906 : On a collection of Crustacea from the Port Curtis District, Queensland. Proc. Linn. Soc. N. S. W., **31**, 2-53, pls. 1-4.
- GUINOT, D. 1969 : Sur divers Xanthidae, notamment sur *Actaea* DE HAAN et *Paractea* gen. nov. (Crustacea, Decapoda, Brachyura). Cah. Pacif., **13**, 223-267, figs. 1-36.
- . 1977 : Données nouvelles sur la morphologie, la phylogénèse et la taxonomie des Crustacés Décapodes Brachyours. Thèse de Doctorat d'État ès Sciences, Université Pierre et Marie Curie, 2 vols., pp. i-xv, 1-486, xvi-xxiv, 31 pls.
- . 1979 : Données nouvelles sur la morphologie, la phylogénèse et la taxonomie des Crustacés Décapodes Brachyours. Mém. Mus. Natn. Hist. Nat., Paris, **112**, 1-354, pls. 1-27.
- . & B. RICHER de FORGES. 1981 : Crabes de profondeur, nouveaux ou rares, de l'Indo-Pacifique (Crustacea, Decapoda, Brachyura) (Prêmiere partie). Bull. Mus. natn. Hist. nat., (4) **2**, 1113-1153.
- HERBST, J. F. W. 1803 : Versuch einer Naturgeschichte der Krabben und Krebse nebst einer systematischen Beschreibung ihrer verschieden Arten. Berlin & Stralsund Vol. 3 pt 3. pp. 1-54, pls. 55-58.
- 丸村眞弘・武田正倫. 2004 : 和歌山県立自然博物館所蔵のカニ類標本(永井コレクション)の分類学的研究,

- I. 日本新記録種 (1). 南紀生物, **46** (2), 93-99
- NG, P. K. L., D. GUINOT & P. J. F. DAVIE. 2008 : Systema  
Brachyurorum: Part I. An annotated checklist of extant  
brachyuran crabs of the world. Raffles Bull. Zool., **17**, 1-  
286.
- SAKAI, T. 1939 : Studies on the Crabs of Japan. IV .  
Brachygnatha, Brachyrhyncha. Yokendo, Tokyo, 365 -  
741, pls. 42-111.
- SERÈNE, R. 1984 : Crustacés Décapodes Brachyours de  
l'Océan Indien occidental et de la Mer Rouge.  
Xanthoidea: Xanthidae et Trapeziidae, Addendum  
Carpiliidae et Menippidae. Faune Trop., **24**, 1-400, pls.  
1-48.
- . & C. L. SOH. 1976 : Brachyura collected during  
the Thai-Danish Expedition (1966) . Res. Bull. Phuket  
Mar. Biol. Cent., **12**, 1-37.
- STIMPSON, W. 1858 : Prodomus descriptionis animalium  
evertibratorum in expeditione ad Oceanum Pacificum  
Septentrionalem missa, C. RINGGOLD et Johanne  
RODGERS ducibus, observatorum et descriptorum. Pars  
IV . Crustacea Cancroidea et Corystoidea. Proc. Acad.  
Nat. Sci. Philadelphia, **10**, 31-40.
- TAKEDA, M. & S. MIYAKE. 1968 : Crabs from the East China  
Sea, I . Corystoidea and Brachygnatha Brachyrhyncha.  
J. Fac. Agr., Kyushu Univ., **14**, 541-582, pl. 6.
- WARD, M. 1933 : New genera and species of marine  
Decapoda Brachyura. Austr. Zool., **7**, 77 - 394, pls. 21 -  
23.

### Summary

In the second of serial papers, six species of crabs in the Nagai Collection of the Wakayama Prefectural Museum of Natural History are recorded as new to the carcinological fauna of Japan. They are *Cryptocnemus planus* WARD, 1933 (Ishigaki-jima I., southern Ryukyu Is., ca. 2 m deep) (Leucosiidae), *Oncinopus postillonensis* GRIFFIN & TRANTER, 1986 (Okinawa-jima I., Ryukyu Is., 60-70m deep) (Inachidae), *Micippa xishaensis* CHEN, 1979 (Cape Shionomisaki, Kii Penin., central Japan, ca. 10 m deep) and *Tiarinia dana* GRIFFIN & TRANTER, 1986 (Aka-jima I., Ryukyu Is., ca.3m deep) (Mithracidae), *Demania cultripes* (ALCOCK, 1898) (off Amami-Oshima I., 30 - 50 m deep) (Xanthidae), and *Rectopalicus ampullatus* CASTRO, 2000 (off Kume-jima I., Ryukyu Is. ca. 250 m deep) (Palicidae).